

千種演習場

日露戦争

ロシアはシベリア鉄道を進展させ、満州を縦断してそれを旅順まで伸ばし、旅順には艦隊を置き朝鮮半島への南下を狙っていた。日清戦争後の遼東半島の返還も迫ってきた。日露通商協定も進まず、明治 37 年 2 月 5 日、日露交渉決裂、日露開戦となった。朝鮮仁川上陸、旅順のロシア艦隊攻撃、軍港閉鎖、日本海海戦、陸軍は奉天へ入城、鉄嶺から開原まで進撃して勝利をおさめた。同 38 年 5 月、米国大統領ルーズベルトの斡旋によりポーツマスで講和条約締結調印となる。

富国強兵

同 38 年 9 月、日露戦争が終結すると陸軍増設、海軍拡張の声が挙がり、名古屋駐屯の陸軍第三師団司令部には管下部隊の野戦訓練場として菰野富士山麓の江野高原に目をつけ、陸軍用地買収の打診を村当局にしてきた。

協定調印

千種村村長辻米太郎は、村民、村会議に諮り協議の結果、陸軍省の要請を受け入れ、同 43 年 4 月、協定書に調印した。

神社の移転

前野の神明神社社地が陸軍用地になるので、榊原神社へ一端移し、拝殿、本殿を取り壊した。

厩舎の建築

同 42 年 7 月、第 3 師団建築部から指揮の将校以下 130 名の工作隊が千種に駐屯して厩舎の建築が開始された。建築材は大阪天王寺から鉄道で四日市へ輸送、四日市から牛馬車で千草まで運ぶ。

規模

兵舎 4 棟、大隊本部、中隊本部、将校宿舎、厩舎、衛兵所など 8 棟、総建坪 1388 坪余であった。

飲料水

付近の和泉で湧く子水をろ過して 2m の鉄パイプで引き、1m のパイプで各兵舎に配管給水した。水道工事は岡の矢田甚太郎が施行、施設を軍に献納した。

場内の通行

同 44 年、中川忠三郎村長は、主管の平田光太郎を経て指弾の岡田稻三郎経理部長に願い出て、鳥居道山へ炭焼き、薪取りの通行の許可を得ている。

帯形森林

東江野北西にあった帯状の赤松林の管理、手入れは地元の青年団に委任され、松葉一把につき 1 銭 2 厘の代価を軍に納め、松葉は青年団が売却処分して団費に充当した。

糞尿の処理

厩舎で出来る下肥、馬糞、芥の類は 1 年間に 10 円軍へ納め、農家から引き取りに朝 8 時までに出向いた。

廃弾処理

実戦訓練のため撃った小銃、機関銃、歩兵砲、野砲などの砲弾の処理も村が行っていた。

消費物の供給

駐屯部隊が消費する豆腐、油揚、菓子、木炭、薪は千草村が調達供給をしていた。

編成替え

太平洋戦争が開戦となった昭和 16 年に第 3 師団から第 16 師団（京都）管下に編成替えがあった。千草演習場も隣接の菰野神明、大羽根、新林の三滝川付近が新しく軍用地に編入された。

終戦撤収

昭和 20 年 8 月 15 日、太平洋戦争の敗戦により明治 43 年以来、35 年間の陸軍演習場も撤収され、その後、国有地が払い下げられ開拓農地に生まれ変わった。

